

学校を中心としたまちづくり

～東日本大震災からの復興に向けたアイデア～

基本的な考え方

1. 地域住民の命を守る！

災害に強い学校と「安全・安心」なまちづくり

2. 地域の絆を深める！

地域コミュニティの中心となる学校づくり

3. 東日本から日本を変える！

新たな学校・まちづくりを全国に発信

文部科学省

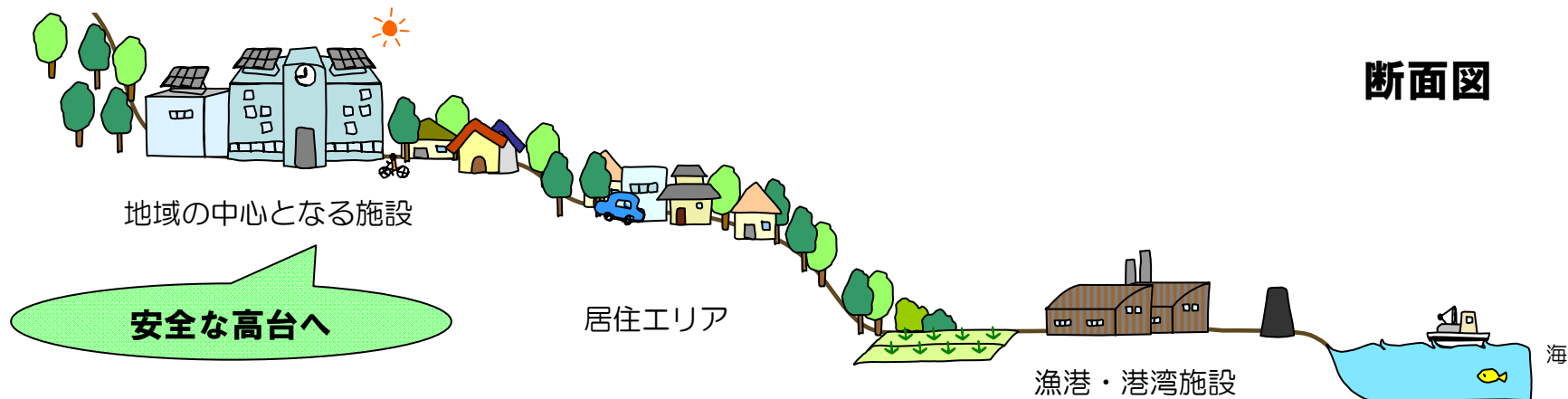
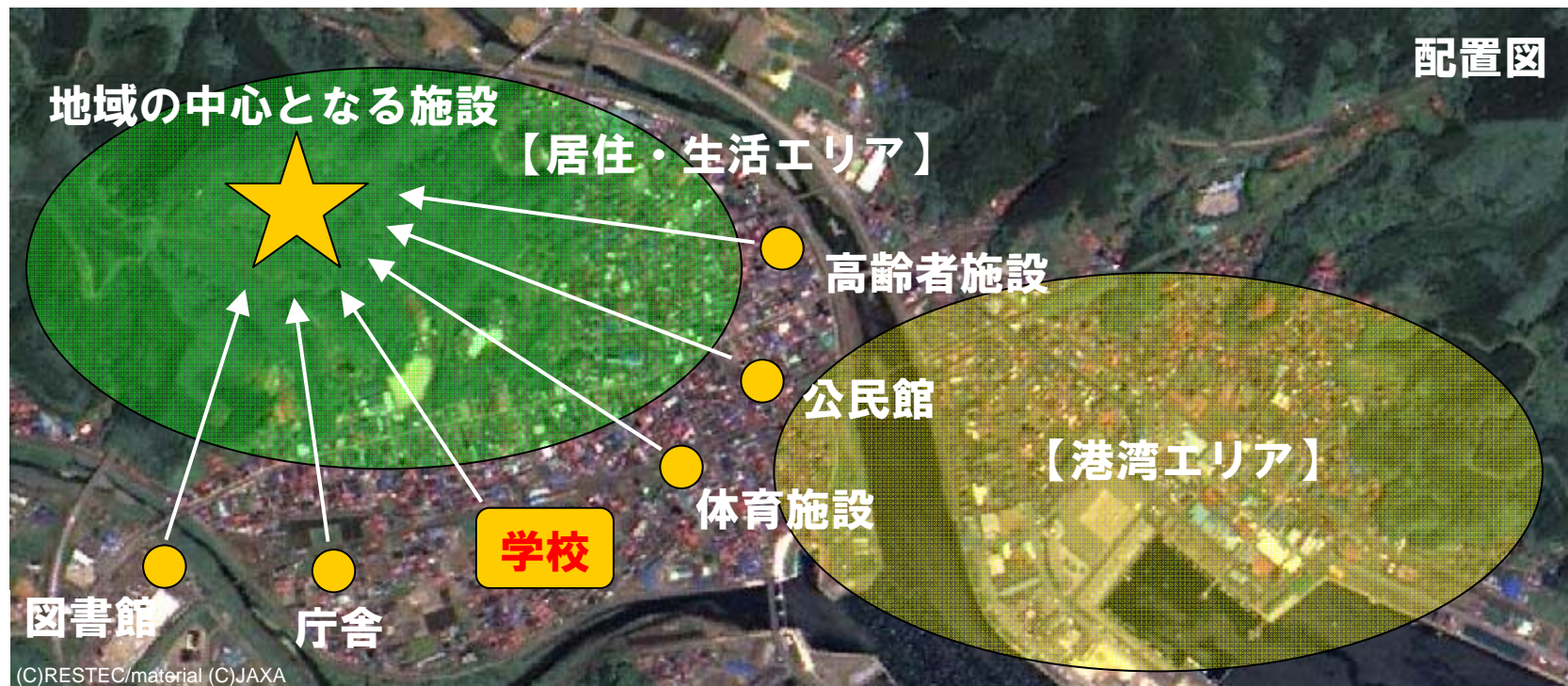
立地に応じた安全・安心のアイデア

学校施設は、災害発生時に地域住民の「待避所」となるとともに、その後は「応急避難所」ともなる。津波等への備えとしては下表が一例。

観点 \ 立地	①沿岸部（山地）	②沿岸部（平野）
待避所	安全な高台へ移転 (十分な敷地が確保できない場合など他の公共施設との複合化)	学校の高層化 (他の公共施設との複合化により高層化を図る)
避難所	防災機能の充実 トイレ、備蓄倉庫、非常用電源設備、ガス設備、通信設備、給排水設備 など	

①沿岸部（山地）における学校（イメージ）

公共施設を安全な高台に集め、地域の中心となる施設を整備

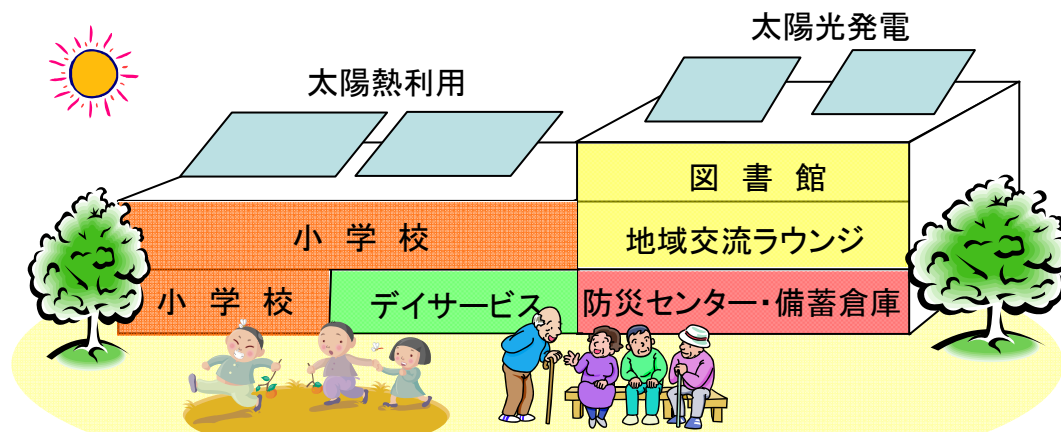
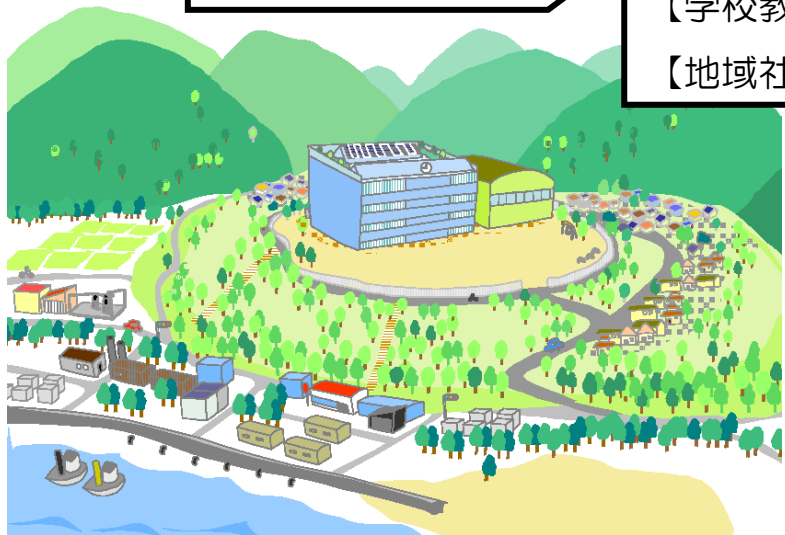


安全な高台へ移転した学校施設のイメージ

(概観図)

複合化のメリット

- 【効率化】安全な高台が少ない地域は複合化により用地を有効活用
- 【学校教育】地域全体で子どもたちを守り育む学習環境の形成
- 【地域社会】異世代間の幅広い交流によるコミュニティの絆の醸成



地域交流ラウンジの整備

子どもから大人まで
世代間交流による絆の醸成



老人福祉施設との複合化

高齢者との交流活動を通じて
地域の伝統・文化を未来に継承



図書館との複合化

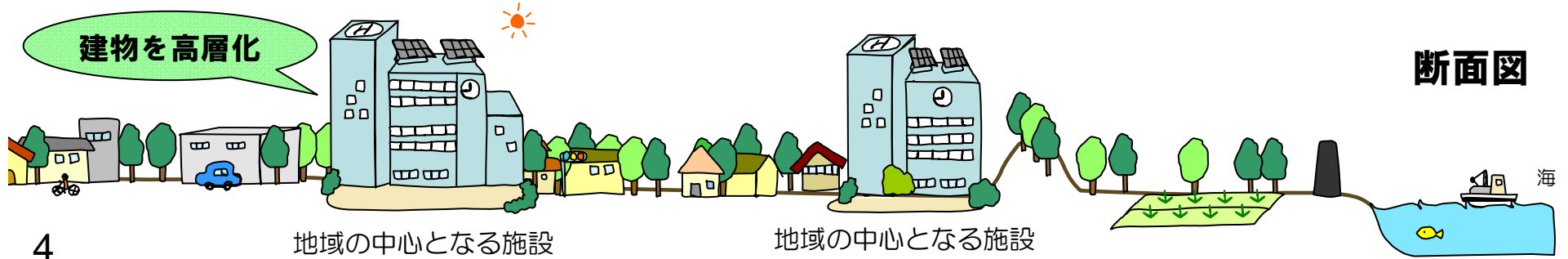
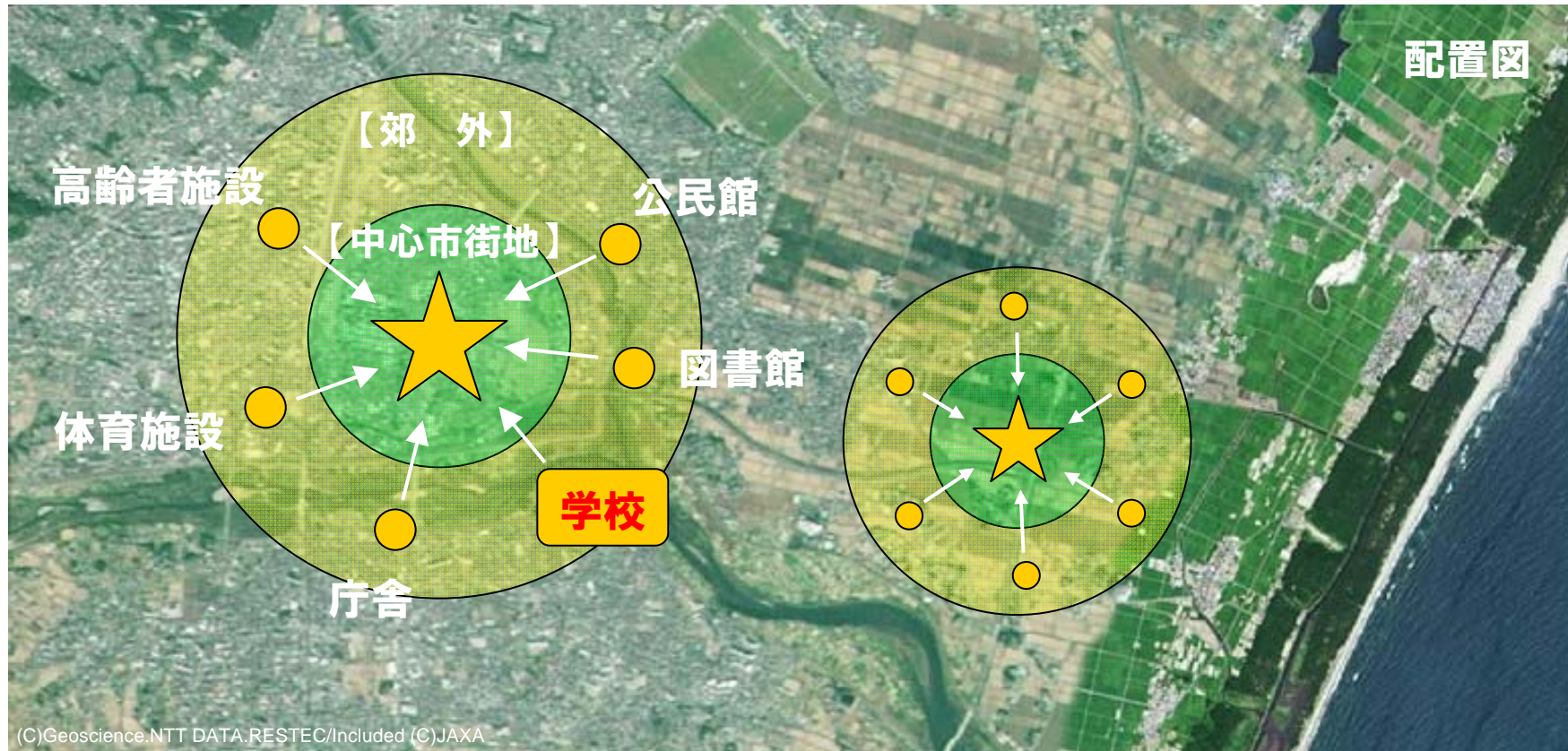
地域住民みんながともに学べる
地域の生涯学習拠点



【留意点】複合化する際には、学校機能に支障がないよう動線計画や防犯計画に十分配慮が必要である。特に幼稚園、小学校の場合は校庭等との連続性に配慮が必要である。

②沿岸部（平野）における学校（イメージ）

複合化により高層化。居住エリアに安全・安心な避難場所を整備

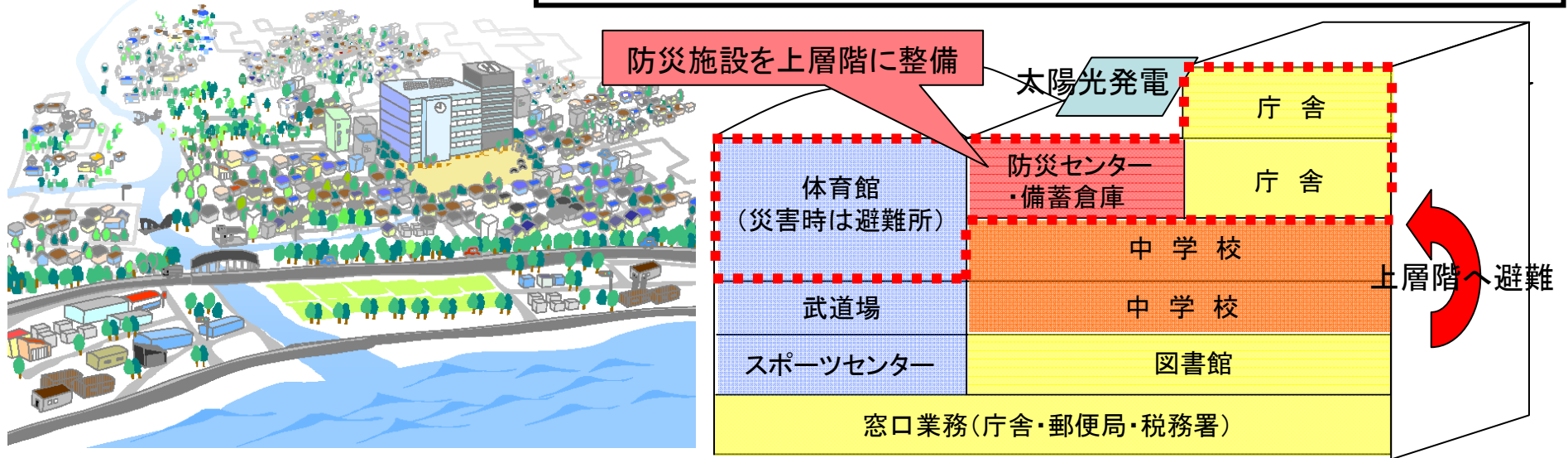


高層化した学校施設のイメージ

(概観図)

複合化のメリット

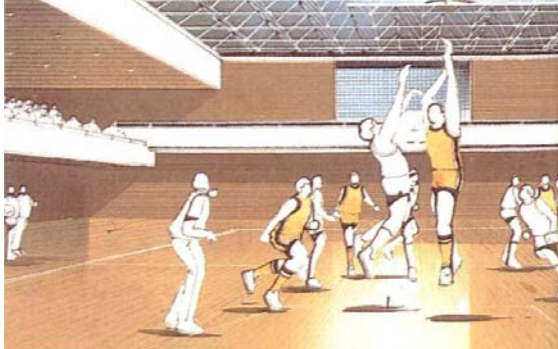
【災害時】複合化による高層化を図り、津波への安全・安心を確保する
 【平常時】地域の交流拠点となり、学校教育にも活用できる



【平常時】 社会体育施設との複合化 【災害時】

みんなでスポーツに親しむ場として

地域住民の応急避難所として



上層階に防災施設を整備

下層階が津波の浸水を受けても
防災機能を維持できる



【留意点】低層の建物に比べ高層の建物は地震に対してより配慮が必要になるため、地震の後も施設機能を維持できるよう構造面等に十分配慮して計画・設計する必要がある。

